

「明るい地域社会づくりと家庭の防犯」

宮城県田尻さくら高等学校3年

三塚 真梨 さん

私は防犯について考えるため、まず我が家の防犯について調べてみました。調べていくと、我が家は、いつでも泥棒が入る事が出来る環境だと思いました。理由は三つあります。

一つ目は、「鍵をかける習慣が薄い」という事です。私の家は、田んぼや畑に囲まれた自然豊かな土地にあります。そういった地域では、農作業に出かける人が多く、朝早くから、夕方まで仕事をこなし、家を留守にする家が多いです。だから、お客さんが訪ねてきても、家にあがって待ってられるようにと、鍵をかけずに出払う習慣があります。私の家も長年、その習慣の元で暮らしてきたので、鍵をかけ忘れる事が多いです。

二つ目は、「民家が離れている」という事です。先ほど述べた様に、私の住んでいる地域は皆、田んぼや畑など自分の土地を持っている人が多く、個人の所有面積が広く、隣の家との距離が離れています。だから、もし家に泥棒が入ってきても、物音や人影、なにより、助けを求める事は難しいと思います。

三つ目は、「地域とのつながりが乏しい」という事です。私の地域間での交流といえば、月に一度、回覧板を届けに行ったり、小学生まで参加したクリスマス会や、運動会、たまに朝の登校時間にみかける近所の人に対する挨拶ぐらいです。一見、何気なく交流している様ですが、もしもの事件や事故が起こった時、きちんと協力できるのだろうか？あの家には同世代で会話をできる人は住んでいるのだろうか？という疑問と不安が湧いてきます。

私は大崎市にある、田尻さくら高校に通っています。田尻では、下校時間になると地域のボランティアの方々が数人で挨拶をしながらパトロールしてくれています。しかし、私の住んでいる地域では、あまり見かける事が少ないです。ちょっとした事かもしれませんが、人の目や、挨拶を交わせる人達がいてくれるという事で、防犯は強化されると思いました。

私も挨拶をかわす、地域とのコミュニケーションを増やしていくなど、身近な事から防犯に努めていきたいと思います。